

1 インタビュー

海外への成果展開、海外との新規ソリューション開発、新技術の試験研究などグローバル R&D を加速

NTTデータグループの新中期経営計画の実現に向け R&D 活動を展開する技術開発本部。競争力の源泉となるソフトウェア開発・PM 領域と、新サービスを生み出す先進技術領域での技術開発に加え、グローバル R&D 活動を積極的に展開する技術開発本部の取組みを木谷強本部長にうかがった。

ソフトウェア開発・PM 領域と先進技術領域の技術開発を推進

— 2012年7月の機構改革で、本社組織であった貴本部が、ソリューション&テクノロジーカンパニー（以下、S&Tカンパニー）に移管されました。はじめに、周辺環境を含めた最近の状況からお聞かせください。

木谷 昨年（2012年）7月、NTTデータグループの新中期経営計画の注力分野である「新規分野拡大・商品力強化」を一段と加速させるために、私ども技術開発本部はS&Tカンパニー配下の組織となりました。本部は、ソフトウェア開発・PM（プロジェクトマネジメント）領域の技術開発を行う3つのセンタ（ソフトウェア工学推進センタ、ALMソリューションセンタ、プロジェクトマネジメント・イノベーションセンタ）と、先進技術領域のR&D活動を推進するサービスイノベーションセンタ、そして企画部、知的財産室で構成されています。技術開発の2つの重点領域のうち、ソフトウェア開発・PM領域ではソフトウェアの生産革新を実現する開発自動化の

さらなる推進や開発管理ツールの普及等の技術開発、および重要プロジェクトの支援を実施しています。

— 先進技術領域では、どのような取組みを行っていますか。

木谷 サービスイノベーションセンタは「リマーケティング」につながる活動として、既存のお客様や新しいお客様に新サービスを提供するべく活動しています。具体的には、昨年2月にM&Aをした数理システム社とのシナジーを活かしたビッグデータ・ビジネスアナリティクス、M2M・ロボティクス技術、ソーシャルデータを含めたテキスト・音声処理等の活用を進めています。新中期経営計画の具体的な実施内容に「戦略的R&D」があり、それを受けて、これまでお話した2つの領域の技術開発に加え、グローバル R&D を



(株)NTTデータ
技術開発本部長
木谷 強氏

加えた3つの柱を重点施策としています。

4つのパターンのグローバル R&D 活動を積極的に展開

— グローバル R&D に関する最近の取組みについては、後続の各論の頁でご紹介しますが、基本的な方向性をお聞かせください。

木谷 昨年度より、図1に示す4つのパターンに分類して、グローバル

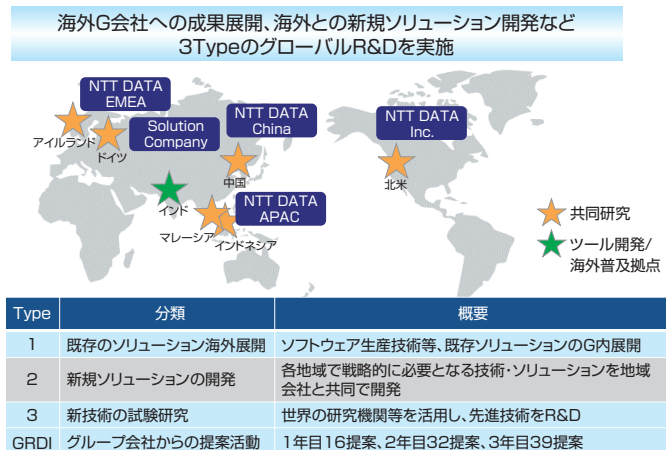


図1 技術開発本部におけるグローバルR&D活動

R&D活動を展開しています。Type1は、当社や海外グループ会社が持つソフトウェア生産技術や既存ソリューションのグループ内展開です。最も重要だと考えているのがType2の取組みです。これは全グループ会社が活用することを前提に、海外グループ会社と共同で新規ソリューションを開発するものです。昨年度はモバイルソリューションの検討を開始しました。Type3は少し先を見据えた取組みです。技術開発本部もそうですが、特に海外グループ会社では半年～1年後に使える短期的なソリューション創出活動にフォーカスしており、新技術を使った新サービスの研究開発には注力していません。そこで将来を見据えた研究開発をしっかりと行うために、外部の先進的な研究機関との共同研究を含めたR&D活動を強化しています。

——昨年11月には、アイルランドの研究機関とBig Data/BIにおけるデータ分析技術の共同研究を開始されましたが、今後もこういった取組みを加速されるお考えですか。

木谷 現在、ASEAN地域に注目しています。すでにマレーシアやインドネシアの著名な大学との共同研究を立ち上げる準備をしています。

Global R&D Committeeによるグローバル連携強化と成果展開

——「Global R&D Initiative」(以下、GRDI)と呼ぶ取組みを2010年度に開始されましたが、その狙いは……。

木谷 グローバルマーケットに適す

るソリューションや技術の新たな研究開発を行うために、海外グループ会社のプロジェクトチームによる技術・ソリューションの開発テーマを募集し、

NTTデータグループで広く活用できるものを評価・採択して研究開発を推進するという取組みです。これにより、現地ニーズに合致した新しい研究成果を生み出すとともに、グループ全体へ展開することを狙いに行っています。3年前にGRDIの活動を開始して以来、提案数は着実に増えています。実際、この活動を利用して得たノウハウをベースに新たなパッケージを開発し、ビジネスを展開しているベトナムの事例なども始めています。

——改めて、GRDIを契機にしたグローバルR&Dの活動状況をお聞かせください。

木谷 2年目の2011年度には、戦略的分野ごとに「Global One Team」と呼ぶグループ横断のチームが立ち上がり始めました。技術開発本部は、ビジネスインテリジェンス(BI)とソフトウェアテスト(Testing)の2つのGlobal One Teamをリードしています。また、APAC諸国のグループ会社を中心に、TERASOLUNAの展開を図るとともに、短期間のSIに適した開発管理手順としてTERASOLUNA SSも共同で開発し

FY2012はType1/2/3の実行、Global R&D Committee運営開始によりグローバル連携を強化するとともに成果展開の包括的な枠組み作りを構築

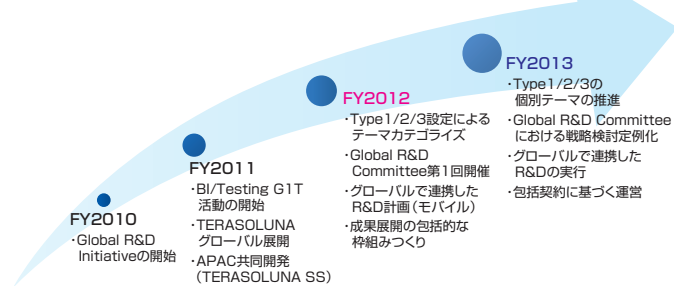


図2 グローバルR&Dの活動経緯

ました。そして昨年度は、前述したようにテーマを3つのTypeに分けて取り組む方針を打ち出したほか、海外グループ会社の統合・再編を機に昨年5月、地域会社のR&D責任者を集めた第1回「Global R&D Committee」を開催しました。

——Global R&D Committeeではどんなことが議論されましたか。

木谷 グループ共通のソリューション開発テーマとして議論されたのが、モバイルソリューションです。また、GRDIによる研究開発テーマのセレクションや、グローバルでの成果展開に関する包括的な契約の枠組み作りについても議論しました。

——最後に、今後の抱負をお聞かせください。

木谷 今年度も引き続き新中期経営計画実現に向け、戦略的R&D活動を推進していきます。特にグローバルR&Dは、今年度の流れを加速し、特に地域会社と共同開発するType2に注力していきます。また、Global R&D Committeeの定着化も図ります。

——今日は有難うございました。

(聞き手・構成：編集長 河西義人)